



環境教育に関する取組について

～阿寒湖畔における
前田一步園財団との
環境教育プロジェクト～

北海道教育大学附属釧路小学校

ESDのテーマ

- ・環境教育
- ・国際理解教育
- ・エネルギー教育
- ・世界遺産・地域の文化財等に関する教育
- ・その他、持続可能な社会づくりのための担い手づくりを育む教育

ユネスコ・スクールの研究テーマ

- ・地球規模の問題に対する国連システムの理解
- ・人権、民主主義の理解と促進
- ・国際理解教育
- ・環境教育
- ・その他、ユネスコの理念に沿ったテーマ

年間を通して、各教科、道徳、特別活動等の環境にかかわる内容について連携を図った指導を行い、横断的・総合的な教育活動を推進していく。

本校の環境教育の目標

自分たちを取り巻く環境についての事物・現象に対して意欲的にかかわり，それらに対する感受性を豊かにし，環境や環境問題に関する見方・考え方や，よりよい環境の創造のために主体的に行動できる実践的態度をはぐくむ。

発達の段階に応じた環境教育にかかわる活動の重点

低学年

自然の中で遊ぶ体験や動植物の飼育・栽培などの活動を行い，自然環境や自然現象に対する感受性や興味・関心を高めるとともに，原体験を拡大し，自然のすばらしさや生命の大切さを感得できるようにする。

中学年

自然や身近な地域社会の環境に進んでかかわり，環境に対する問題を見いだし，追究していくことができるようにするとともに，自分たちの生活が地域とかかわって成り立っていることを意識できるようにする。

高学年

体験活動や資料等の情報を通して，環境を多面的に捉えながらものの連鎖や循環という視点から，より主体的に環境とかかわり，環境を大切にすることができるようにする。

学年経営		2階のリーダーとしての自覚 けじめのある生活		自主的な取り組みの高まり 計画・実施・ふりかえりのある生活		目的に向かって協力し合う 協力した活動づくり 学年組織を生かした活動		自分の成長のふりかえりと進級への期待 1年間のまとめの活動 5年生に向けての心構え					
道徳教育		目指す子と像：思いやりの心をもち、目的に向かって努力する子 基本方針：お互いのよさを認め合うことがでる学年・学級集団の中で、意欲と自分の考えをもち、ねばり強く実践する子の育成を目指す。											
月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
行事等		始業式、入学式	花いっぱい運動	厚岸みどりの学校			運動会 前期終業式	後期始業式 マラソン記録会 北国集会		学芸発表会		親子一日入学、6送会	卒業式、修了式
学級活動		4年生として 学級目標を定めよう 係・委員会を始めよう 初めての委員会 振替の仕方	花いっぱいしよう みどりの学校に向けて③ パソコン室の使い方	みどりの学校をめぐって	楽しい園休み 運動会に向けて 夏休みの思い出・作品	運動会に向けて 前向きなふりかえり	運動会に向けて 前向きなふりかえり	後期の学級目標と個人目標 係を見直そう マラソン記録会に向けて 後期に向けて	学芸会に向けて③ 休み時間を楽しく	冬休みの過ごし方 朝食について考えよう	冬休みの思い出・作品	もうすぐ高学年 4年生お別れ集会に向けて② 6送会に向けて②	4年生お別れ集会 1年間の振り返り 春休みの過ごし方
学びが 広がる単元活動													
〇お互いに励まし合い、 学級・学年集団として高 まっていこう活動		すてきな笑顔になれる場 はげまし合い高め合う場 国113 理10 音19 図40 体31											
		すてきな5年生になろう 国14 音8 図5 心の通い合いを語る 〜タタタ (国) 新しい言葉 伝わる言葉 (国) 飛び出すメッセージ (図) せんりつと音色 (音) 音楽ランド (音) 卒業式の歌 (音) ゆめのかいそう (図) これまでこれから (国)											
〇身のまわりの不思議 について考えていく活 動		今日から4年生 国20 音6 図3 入学式の歌 (音) 元気に声をだし合おう (国) っぽんのうた・みんなのうた (音) やい、とがけ (国) 漢字辞典の使い方 (国) 音楽ランド (音) ひびけ歌声 (音) ねん土のひもから (図)											
		笑顔で厚岸みどりの学校 国10 図6 体4 それ行けたんけんだい (図) リズムダンス (音) 育ちゆく体とわたし (体) 浮く・泳ぐ運動の心得 (体) 学級新聞をつくろう (国)											
〇身近な地域のくらし や自然を知り、自分と のかかわりを考えていく 活動		はげまし合おう運動会 国27 音6 図13 体15 がけっこ・リレー (体) 高飛び・がけっこ (体) 体を移動する運動 (体) 観戦を受けとめて読む はっとしたことを話そう (国)											
		高め合おう学芸会 国28 理10 音19 図5 体12 こんざつね (国) 本の世界を広げて読む〜そらそら (国) 読書発表会をしよう (国) 体のつくりと動き (理) マット運動 (体) 表現運動 (体) アンサンブルの楽しさ (音) みんなの音楽/パーティー (音) 音楽のききどころ (音) えんそうのソボ (音) 音楽ランド (音) ひょうしとせんりつ (音) めざせ楽器名人 (音) ひびけ歌声 (音) いつもの場所がへんしん (図)											
〇体力づくりを通して、 自分自身を高めようと 努力していく活動		自信をもってやりぬく場 国97 社90 算175 理95 音21 図20											
		身近な不思議を探究しよう 理44 国27 算57 音8 図6 天気による気温の変化 (理) 折れ線グラフ (算) 小数の仕組みとたし算 (算) そろばん (算) 電気のはたらき (理) 角 (算) とじこめた空気と水 (理) 水のすがた (理) 水のゆくえ (理) もののあたたまり方 (理) ものの温度と体積 (理)											
〇力づくりを通して、 自分自身を高めようと 努力していく活動		春を感じて 国6 理10 音3 図2 春のさくら (理) 春と生き物 (理) 学校の住人 (図) っぽんのうたみんなのうた (音) 写真をとりにスピーチしよう (国)											
		夏を感じて 理10 音2 夏の生き物 (理) 夏の星 (理) っぽんのうたみんなのうた (音)											
〇力づくりを通して、 自分自身を高めようと 努力していく活動		秋を感じて 国7 理15 音1 秋と生き物 (理) 月と星 (理) 涼やかな秋と生き物 (理) 様子を思い浮かべて (国) 日本語のひびきにふれる (国) っぽんのうたみんなのうた (音)											
		冬を感じて 理15 冬の生き物 (理) 冬の星 (理) スケート (体) 生き物の1年 (理)											
〇力づくりを通して、 自分自身を高めようと 努力していく活動		交通安全を守り隊 国10 社10 算19 理6 図7 安全なくらしとまちづくり (その1) (社) アーチ橋の進歩 (図) 立体 (算) コロコロガーレ (図)											
		火事からみんなを守り隊 国22 社16 算15 図5 安全なくらしとまちづくり (その2) (社) 見学したことを報告しよう (図) しょうぼうしがい板を作ろう (図) はんのなマイボックス (図) 学級で話し合おう (国)											
〇力づくりを通して、 自分自身を高めようと 努力していく活動		水はどこから・ごみのゆくえ 国12 社21 算40 健康なくらしとまちづくり (社) がい数 (算) がい数を使った計算 (算) 大きな数 (算) 式と計算 (算) 整理のしかた (算) ポスターセッションで発表しよう (国)											
		便利な世の中「ひま・むかし」 国11 社18 音3 昔のくらしとまちづくり (社) 「便利」ということ (国) 「便利」ということ (国) お祭りや民謡めぐり (音) 音楽ランド (音) 日本語の文化に親しむ (国) 音のスケッチ (音)											
〇力づくりを通して、 自分自身を高めようと 努力していく活動		わたしたちの北海道 国2 社25 算44 音4 わたしたちの北海道のまちづくり (社) 変わりの方 (算) 分数の大きさとし算、ひき算 (算) 小数と整数のかけ算、わり算 (算) 面積 (算) 垂直、平行と四角形 (算) お祭りや民謡めぐり (音)											
		交通安全まちだんけん 消防設備を調べよう 阿寒百年水見学 清瀬工場見学 昔の道具を使ってみよう 北海道MAPづくり											
〇力づくりを通して、 自分自身を高めようと 努力していく活動		元気にすごす体づくりの場 体74 体ほぐしの運動 (体) 体力テスト (体) ベースボール型ゲーム (体) 用具を操作する運動 (体) ネット型ゲーム (体) 体のバランスをとる運動 (体) 鉄棒運動 (体) カ試しの運動 (体) 体を移動する運動 (体) 小型ハードル走 (体) 体を移動する運動 (体) 体力テスト (体) ゴール型ゲーム (体) 跳び箱運動 (体)											
		1の視点 (1) 節度ある生活 (2) 不とう不屈・努力 (3) 勇気 (4) 正義感・明朗 (5) 個性の伸長 【2の視点 (1) 礼儀 (2) 思いやり親切 (3) 信頼友情 (4) 尊敬・感謝 3の視点 (1) 生命尊重 (2) 自然愛動物愛 (3) 敬労 (4) 公愛心 (2) 勤労 (3) 愛敬愛 (4) 愛敬心 (5) 郷土愛 (6) 愛国心											
道徳の 時間		1の視点 目チェックチェック チェック! (1) 目おぼろけのめがね (2) 目おぼろけのめがね (3) 目おぼろけのめがね (4) 目おぼろけのめがね (5) 目おぼろけのめがね (6) 目おぼろけのめがね (7) 目おぼろけのめがね (8) 目おぼろけのめがね (9) 目おぼろけのめがね (10) 目おぼろけのめがね (11) 目おぼろけのめがね (12) 目おぼろけのめがね (13) 目おぼろけのめがね (14) 目おぼろけのめがね (15) 目おぼろけのめがね (16) 目おぼろけのめがね (17) 目おぼろけのめがね (18) 目おぼろけのめがね (19) 目おぼろけのめがね (20) 目おぼろけのめがね (21) 目おぼろけのめがね (22) 目おぼろけのめがね (23) 目おぼろけのめがね (24) 目おぼろけのめがね (25) 目おぼろけのめがね (26) 目おぼろけのめがね (27) 目おぼろけのめがね (28) 目おぼろけのめがね (29) 目おぼろけのめがね (30) 目おぼろけのめがね (31) 目おぼろけのめがね (32) 目おぼろけのめがね (33) 目おぼろけのめがね (34) 目おぼろけのめがね (35) 目おぼろけのめがね (36) 目おぼろけのめがね (37) 目おぼろけのめがね (38) 目おぼろけのめがね (39) 目おぼろけのめがね (40) 目おぼろけのめがね (41) 目おぼろけのめがね (42) 目おぼろけのめがね (43) 目おぼろけのめがね (44) 目おぼろけのめがね (45) 目おぼろけのめがね (46) 目おぼろけのめがね (47) 目おぼろけのめがね (48) 目おぼろけのめがね (49) 目おぼろけのめがね (50) 目おぼろけのめがね (51) 目おぼろけのめがね (52) 目おぼろけのめがね (53) 目おぼろけのめがね (54) 目おぼろけのめがね (55) 目おぼろけのめがね (56) 目おぼろけのめがね (57) 目おぼろけのめがね (58) 目おぼろけのめがね (59) 目おぼろけのめがね (60) 目おぼろけのめがね (61) 目おぼろけのめがね (62) 目おぼろけのめがね (63) 目おぼろけのめがね (64) 目おぼろけのめがね (65) 目おぼろけのめがね (66) 目おぼろけのめがね (67) 目おぼろけのめがね (68) 目おぼろけのめがね (69) 目おぼろけのめがね (70) 目おぼろけのめがね (71) 目おぼろけのめがね (72) 目おぼろけのめがね (73) 目おぼろけのめがね (74) 目おぼろけのめがね (75) 目おぼろけのめがね (76) 目おぼろけのめがね (77) 目おぼろけのめがね (78) 目おぼろけのめがね (79) 目おぼろけのめがね (80) 目おぼろけのめがね (81) 目おぼろけのめがね (82) 目おぼろけのめがね (83) 目おぼろけのめがね (84) 目おぼろけのめがね (85) 目おぼろけのめがね (86) 目おぼろけのめがね (87) 目おぼろけのめがね (88) 目おぼろけのめがね (89) 目おぼろけのめがね (90) 目おぼろけのめがね (91) 目おぼろけのめがね (92) 目おぼろけのめがね (93) 目おぼろけのめがね (94) 目おぼろけのめがね (95) 目おぼろけのめがね (96) 目おぼろけのめがね (97) 目おぼろけのめがね (98) 目おぼろけのめがね (99) 目おぼろけのめがね (100) 目おぼろけのめがね (101) 目おぼろけのめがね (102) 目おぼろけのめがね (103) 目おぼろけのめがね (104) 目おぼろけのめがね (105) 目おぼろけのめがね (106) 目おぼろけのめがね (107) 目おぼろけのめがね (108) 目おぼろけのめがね (109) 目おぼろけのめがね (110) 目おぼろけのめがね (111) 目おぼろけのめがね (112) 目おぼろけのめがね (113) 目おぼろけのめがね (114) 目おぼろけのめがね (115) 目おぼろけのめがね (116) 目おぼろけのめがね (117) 目おぼろけのめがね (118) 目おぼろけのめがね (119) 目おぼろけのめがね (120) 目おぼろけのめがね (121) 目おぼろけのめがね (122) 目おぼろけのめがね (123) 目おぼろけのめがね (124) 目おぼろけのめがね (125) 目おぼろけのめがね (126) 目おぼろけのめがね (127) 目おぼろけのめがね (128) 目おぼろけのめがね (129) 目おぼろけのめがね (130) 目おぼろけのめがね (131) 目おぼろけのめがね (132) 目おぼろけのめがね (133) 目おぼろけのめがね (134) 目おぼろけのめがね (135) 目おぼろけのめがね (136) 目おぼろけのめがね (137) 目おぼろけのめがね (138) 目おぼろけのめがね (139) 目おぼろけのめがね (140) 目おぼろけのめがね (141) 目おぼろけのめがね (142) 目おぼろけのめがね (143) 目おぼろけのめがね (144) 目おぼろけのめがね (145) 目おぼろけのめがね (146) 目おぼろけのめがね (147) 目おぼろけのめがね (148) 目おぼろけのめがね (149) 目おぼろけのめがね (150) 目おぼろけのめがね (151) 目おぼろけのめがね (152) 目おぼろけのめがね (153) 目おぼろけのめがね (154) 目おぼろけのめがね (155) 目おぼろけのめがね (156) 目おぼろけのめがね (157) 目おぼろけのめがね (158) 目おぼろけのめがね (159) 目おぼろけのめがね (160) 目おぼろけのめがね (161) 目おぼろけのめがね (162) 目おぼろけのめがね (163) 目おぼろけのめがね (164) 目おぼろけのめがね (165) 目おぼろけのめがね (166) 目おぼろけのめがね (167) 目おぼろけのめがね (168) 目おぼろけのめがね (169) 目おぼろけのめがね (170) 目おぼろけのめがね (171) 目おぼろけのめがね (172) 目おぼろけのめがね (173) 目おぼろけのめがね (174) 目おぼろけのめがね (175) 目おぼろけのめがね (176) 目おぼろけのめがね (177) 目おぼろけのめがね (178) 目おぼろけのめがね (179) 目おぼろけのめがね (180) 目おぼろけのめがね (181) 目おぼろけのめがね (182) 目おぼろけのめがね (183) 目おぼろけのめがね (184) 目おぼろけのめがね (185) 目おぼろけのめがね (186) 目おぼろけのめがね (187) 目おぼろけのめがね (188) 目おぼろけのめがね (189) 目おぼろけのめがね (190) 目おぼろけのめがね (191) 目おぼろけのめがね (192) 目おぼろけのめがね (193) 目おぼろけのめがね (194) 目おぼろけのめがね (195) 目おぼろけのめがね (196) 目おぼろけのめがね (197) 目おぼろけのめがね (198) 目おぼろけのめがね (199) 目おぼろけのめがね (200) 目おぼろけのめがね (201) 目おぼろけのめがね (202) 目おぼろけのめがね (203) 目おぼろけのめがね (204) 目おぼろけのめがね (205) 目おぼろけのめがね (206) 目おぼろけのめがね (207) 目おぼろけのめがね (208) 目おぼろけのめがね (209) 目おぼろけのめがね (210) 目おぼろけのめがね (211) 目おぼろけのめがね (212) 目おぼろけのめがね (213) 目おぼろけのめがね (214) 目おぼろけのめがね (215) 目おぼろけのめがね (216) 目おぼろけのめがね (217) 目おぼろけのめがね (218) 目おぼろけのめがね (219) 目おぼろけのめがね (220) 目おぼろけのめがね (221) 目おぼろけのめがね (222) 目おぼろけのめがね (223) 目おぼろけのめがね (224) 目おぼろけのめがね (225) 目おぼろけのめがね (226) 目おぼろけのめがね (227) 目おぼろけのめがね (228) 目おぼろけのめがね (229) 目おぼろけのめがね (230) 目おぼろけのめがね (231) 目おぼろけのめがね (232) 目おぼろけのめがね (233) 目おぼろけのめがね (234) 目おぼろけのめがね (235) 目おぼろけのめがね (236) 目おぼろけのめがね (237) 目おぼろけのめがね (238) 目おぼろけのめがね (239) 目おぼろけのめがね (240) 目おぼろけのめがね (241) 目おぼろけのめがね (242) 目おぼろけのめがね (243) 目おぼろけのめがね (244) 目おぼろけのめがね (245) 目おぼろけのめがね (246) 目おぼろけのめがね (247) 目おぼろけのめがね (248) 目おぼろけのめがね (249) 目おぼろけのめがね (250) 目おぼろけのめがね (251) 目おぼろけのめがね (252) 目おぼろけのめがね (253) 目おぼろけのめがね (254) 目おぼろけのめがね (255) 目おぼろけのめがね (256) 目おぼろけのめがね (257) 目おぼろけのめがね (258) 目おぼろけのめがね (259) 目おぼろけのめがね (260) 目おぼろけのめがね (261) 目おぼろけのめがね (262) 目おぼろけのめがね (263) 目おぼろけのめがね (264) 目おぼろけのめがね (265) 目おぼろけのめがね (266) 目おぼろけのめがね (267) 目おぼろけのめがね (268) 目おぼろけのめがね (269) 目おぼろけのめがね (270) 目おぼろけのめがね (271) 目おぼろけのめがね (272) 目おぼろけのめがね (273) 目おぼろけのめがね (274) 目おぼろけのめがね (275) 目おぼろけのめがね (276) 目おぼろけのめがね (277) 目おぼろけのめがね (278) 目おぼろけのめがね (279) 目おぼろけのめがね (280) 目おぼろけのめがね (281) 目おぼろけのめがね (282) 目おぼろけのめがね (283) 目おぼろけのめがね (284) 目おぼろけのめがね (285) 目おぼろけのめがね (286) 目おぼろけのめがね (287) 目おぼろけのめがね (288) 目おぼろけのめがね (289) 目おぼろけのめがね (290) 目おぼろけのめがね (291) 目おぼろけのめがね (292) 目おぼろけのめがね (293) 目おぼろけのめがね (294) 目おぼろけのめがね (295) 目おぼろけのめがね (296) 目おぼろけのめがね (297) 目おぼろけのめがね (298) 目おぼろけのめがね (299) 目おぼろけのめがね (300) 目おぼろけのめがね (301) 目おぼろけのめがね (302) 目おぼろけのめがね (303) 目おぼろけのめがね (304) 目おぼろけのめがね (305) 目おぼろけのめがね (306) 目おぼろけのめがね (307) 目おぼろけのめがね (308) 目おぼろけのめがね (309) 目おぼろけのめがね (310) 目おぼろけのめがね (311) 目おぼろけのめがね (312) 目おぼろけのめがね (313) 目おぼろけのめがね (314) 目おぼろけのめがね (315) 目おぼろけのめがね (316) 目おぼろけのめがね (317) 目おぼろけのめがね (318) 目おぼろけのめがね (319) 目おぼろけのめがね (320) 目おぼろけのめがね (321) 目おぼろけのめがね (322) 目おぼろけのめがね (323) 目おぼろけのめがね (324) 目おぼろけのめがね (325) 目おぼろけのめがね (326) 目おぼろけのめがね (327) 目おぼろけのめがね (328) 目おぼろけのめがね (329) 目おぼろけのめがね (330) 目おぼろけのめがね (331) 目おぼろけのめがね (332) 目おぼろけのめがね (333) 目おぼろけのめがね (334) 目おぼろけのめがね (335) 目おぼろけのめがね (336) 目おぼろけのめがね (337) 目おぼろけのめがね (338) 目おぼろけのめがね (339) 目おぼろけのめがね (340) 目おぼろけのめがね (341) 目おぼろけのめがね (342) 目おぼろけのめがね (343) 目おぼろけのめがね (344) 目おぼろけのめがね (345) 目おぼろけのめがね (346) 目おぼろけのめがね (347) 目おぼろけのめがね (348) 目おぼろけのめがね (349) 目おぼろけのめがね (350) 目おぼろけのめがね (351) 目おぼろけのめがね (352) 目おぼろけのめがね (353) 目おぼろけのめがね (354) 目おぼろけのめがね (355) 目おぼろけのめがね (356) 目おぼろけのめがね (357) 目おぼろけのめがね (358) 目おぼろけのめがね (359) 目おぼろけのめがね (360) 目おぼろけのめがね (361) 目おぼろけのめがね (362) 目おぼろけのめがね (363) 目おぼろけのめがね (364) 目おぼろけのめがね (365) 目おぼろけのめがね (366) 目おぼろけのめがね (367) 目おぼろけのめがね (368) 目おぼろけのめがね (369) 目おぼろけのめがね (370) 目おぼろけのめがね (371) 目おぼろけのめがね (372) 目おぼろけのめがね (373) 目おぼろけのめがね (374) 目おぼろけのめがね (375) 目おぼろけのめがね (376) 目おぼろけのめがね (377) 目おぼろけのめがね (378) 目おぼろけのめがね (379) 目おぼろけのめがね (380) 目おぼろけのめがね (381) 目おぼろけのめがね (382) 目おぼろけのめがね (383) 目おぼろけのめがね (384) 目おぼろけのめがね (385) 目おぼろけのめがね (386) 目おぼろけのめがね (387) 目おぼろけのめがね (388) 目おぼろけのめがね (389) 目おぼろけのめがね (390) 目おぼろけのめがね (391) 目おぼろけのめがね (392) 目おぼろけのめがね (393) 目おぼろけのめがね (394) 目おぼろけのめがね (395) 目おぼろけのめがね (396) 目おぼろけのめがね (397) 目おぼろけのめがね (398) 目おぼろけのめがね (399) 目おぼろけのめがね (400) 目おぼろけのめがね (401) 目おぼろけのめがね (402) 目おぼろけのめがね (403) 目おぼろけのめがね (404) 目おぼろけのめがね (405) 目おぼろけのめがね (406) 目おぼろけのめがね (407) 目おぼろけのめがね (408) 目おぼろけのめがね (409) 目おぼろけのめがね (410) 目おぼろけのめがね (411) 目おぼろけのめがね (412) 目おぼろけのめがね (413) 目おぼろけのめがね (414) 目おぼろけのめがね (415) 目おぼろけのめがね (416) 目おぼろけのめがね (417) 目おぼろけのめがね (418) 目おぼろけのめがね (419) 目おぼろけのめがね (420) 目おぼろけのめがね (421) 目おぼろけのめがね (422) 目おぼろけのめがね (423) 目おぼろけのめがね (424) 目おぼろけのめがね (425) 目おぼろけのめがね (426) 目おぼろけのめがね (427) 目おぼろけのめがね (428) 目おぼろけのめがね (429) 目おぼろけのめがね (430) 目おぼろけのめがね (431) 目おぼろけのめがね (432) 目おぼろけのめがね (433) 目おぼろけのめがね (434) 目おぼろけのめがね (435) 目おぼろけのめがね (436) 目おぼろけのめがね (437) 目おぼろけのめがね (438) 目おぼろけのめがね (439) 目おぼろけのめがね (440) 目おぼろけのめがね (441) 目おぼろけのめがね (442) 目おぼろけのめがね (443) 目おぼろけのめがね (444) 目おぼろけのめがね (445) 目おぼろけのめがね (446) 目おぼろけのめがね (447) 目おぼろけのめがね (448) 目おぼろけのめがね (449) 目おぼろけのめがね (450) 目おぼろけのめがね (451) 目おぼろけのめがね (452) 目おぼろけのめがね (453) 目おぼろけのめがね (454) 目おぼろけのめがね (455) 目おぼろけのめがね (456) 目おぼろけのめがね (457) 目おぼろけのめがね (458) 目おぼろけのめがね (459) 目おぼろけのめがね (460) 目おぼろけのめがね (461) 目おぼろけのめがね (462) 目おぼろけのめがね (463) 目おぼろけのめがね (464) 目おぼろけのめがね (465) 目おぼろけのめがね (466) 目おぼろけのめがね (467) 目おぼろけのめがね (468) 目おぼろけのめがね (469) 目おぼろけのめがね (470) 目おぼろけのめがね (471) 目おぼろけのめがね (472) 目おぼろけのめがね (473) 目おぼろけのめがね (474) 目おぼろけのめがね (475) 目おぼろけのめがね (476) 目おぼろけのめがね (477) 目おぼろけのめがね (478) 目おぼろけのめがね (479) 目おぼろけのめがね (480) 目おぼろけのめがね (481) 目おぼろけのめがね (482) 目おぼろけのめがね (483) 目おぼろけのめがね (484) 目おぼろけのめがね (485) 目おぼろけのめがね (486) 目おぼろけのめがね (487) 目おぼろけのめがね (488) 目おぼろけのめがね (489) 目おぼろけのめがね (490) 目おぼろけのめがね (491) 目おぼろけのめがね (492) 目おぼろけのめがね (493) 目おぼろけのめがね (494) 目おぼろけのめがね (495) 目おぼろけのめがね (496) 目おぼろけのめがね (497) 目おぼろけのめがね (498) 目おぼろけのめがね (499) 目おぼろけのめがね (500) 目おぼろけのめがね (501) 目おぼろけのめがね (502) 目おぼろけのめがね (503) 目おぼろけのめがね (504) 目おぼろけのめがね (505) 目おぼろけのめがね (506) 目おぼろけのめがね (507) 目おぼろけのめがね (508) 目おぼろけのめがね (509) 目おぼろけのめがね (510) 目おぼろけのめがね (511) 目おぼろけのめがね (512) 目おぼろけのめがね (513) 目おぼろけのめがね (514) 目おぼろけのめがね (515) 目おぼろけのめがね (516) 目おぼろけのめがね (517) 目おぼろけのめがね (518) 目おぼろけのめがね (519) 目おぼろけのめがね (520) 目おぼろけのめがね (521) 目おぼろけのめがね (522) 目おぼろけのめがね (523) 目おぼろけのめがね (524) 目おぼろけのめがね (525) 目おぼろけのめがね (526) 目おぼろけのめがね (527) 目おぼろけのめがね (528) 目おぼろけのめがね (529) 目おぼろけのめがね (530) 目おぼろけのめがね (531) 目おぼろけのめがね (532) 目おぼろけのめがね (533) 目おぼろけのめがね (534) 目おぼろけのめがね (535) 目おぼろけのめがね (536) 目おぼろけのめがね (537) 目おぼろけのめがね (538) 目おぼろけのめがね (539) 目おぼろけのめがね (540) 目おぼろけのめがね (541) 目おぼろけのめがね (542) 目おぼろけのめがね (543) 目おぼろけのめがね (544) 目おぼろけのめがね (545) 目おぼろけのめがね (546) 目おぼろけのめがね (547) 目おぼろけのめがね (548) 目おぼろけのめがね (549) 目おぼろけのめがね (550) 目おぼろけのめがね (551) 目おぼろけのめがね (552) 目おぼろけのめがね (553) 目おぼろけのめがね (554) 目おぼろけのめがね (555) 目おぼろけのめがね (556) 目おぼろけのめがね (557) 目おぼろけのめがね (558) 目おぼろけのめがね (559) 目おぼろけのめがね (560) 目おぼろけのめがね (561) 目おぼろけのめがね (562) 目おぼろけのめがね (563) 目おぼろけのめがね (564) 目おぼろけのめがね (565) 目おぼろけのめがね (566) 目おぼろけのめがね (567) 目おぼろけのめがね (568) 目おぼろけのめがね (569) 目おぼろけのめがね (570) 目おぼろけのめがね (571) 目おぼろけのめがね (572) 目おぼろけのめがね (573) 目おぼろけのめがね (574) 目おぼろけのめがね (575) 目おぼろけのめがね (576) 目おぼろけのめがね (577) 目おぼろけのめがね (578) 目おぼろけのめがね (579) 目おぼろけのめがね (580) 目おぼろけのめがね (581) 目おぼろけのめがね (582) 目おぼろけのめがね (583) 目おぼろけのめがね (584) 目おぼろけのめがね (585) 目おぼろけのめがね (586) 目おぼろけのめがね (587) 目おぼろけのめがね (588) 目おぼろけのめがね (589) 目おぼろけのめがね (590) 目おぼろけのめがね (591) 目おぼろけのめがね (592) 目おぼろけのめがね (593) 目おぼろけのめがね (594) 目おぼろけのめがね (595) 目おぼろけのめがね (596) 目おぼろけのめがね (597) 目おぼろけのめがね (598) 目おぼろけのめがね (599) 目おぼろけのめがね (600) 目おぼろけのめがね (601) 目おぼろけのめがね (602) 目おぼろけのめがね (603) 目おぼろけのめがね (604) 目おぼろけのめがね (605) 目おぼろけのめがね (606) 目おぼろけのめがね (607) 目おぼろけのめがね (608) 目おぼろけのめがね (609) 目おぼろけのめがね (610) 目おぼろけのめがね (611) 目おぼろけのめがね (612) 目おぼろけのめがね (613) 目おぼろけのめがね (614) 目おぼろけのめがね (615) 目おぼろけのめがね (616) 目おぼろけのめがね (617) 目おぼろけのめがね (618) 目おぼろけのめがね (619) 目おぼろけのめがね (620) 目おぼろけのめがね (621) 目おぼろけのめがね (622) 目おぼろけのめがね (623) 目おぼろけのめがね (624) 目おぼろけのめがね (625) 目おぼろけのめがね (626) 目おぼろけのめがね (627) 目おぼろけのめがね (628) 目おぼろけのめがね (629) 目おぼろけのめがね (630) 目おぼろけのめがね (631) 目おぼろけのめがね (632) 目おぼろけのめがね (633) 目おぼろけのめがね (634) 目おぼろけのめがね (635) 目おぼろけのめがね (636) 目おぼろけのめがね (637) 目おぼろけのめがね (638) 目おぼろけのめがね (639) 目おぼろけのめがね (64											

阿寒湖畔における 前田一步園財団との環境教育プロジェクト



位置, 地勢

- ・阿寒国立公園の中
- ・管理地～3, 892ha (東京ドーム約800個)
- ・周辺はカルデラに, 阿寒湖, 雌阿寒岳, 雄阿寒岳などを有する
- ・ボツケや湿地など多様な自然環境



主担当 自然普及課長
山本 光一 様

一般財団法人 前田一步園財団とは

ひとりでも多くの人々が自然の恵みを末永く享受できるよう, 北海道の自然環境の保全とその適正な利用をするため設立された公益法人です。

財団では, 前田家から託された森を守り育てる「山林管理事業」と, 北海道の自然保護に関する「目的事業」, これらの活動を財政面で支える「収益事業」の3つの事業を行っています。(Maeda Ippo-en Foundation Profileより)

第2学年

(特活)～5月
「花いっぱい
にしよう」

・学級花壇に花を
植える活動

(特活)～5月

「地域も花い
っぱいにしよう」

・町内会の花壇に花を植える活動

(算数)～5月

「長さのたんい」

・長さの単位を用いて、身の回りの
具体物の長さを測定する活動

(生活)～7月

「つくってあそんでたのしな
～〇〇でうごくおもちゃをつくろう～」

・身近にあるものなどを使って遊びや遊びに
使うものを工夫して作り、そのおもしろさや自
然の不思議さに気付いたりみんなで遊びを
楽しんだりする活動

(生活)～6月

「いきものと なかよし」

・阿寒湖周辺の森林での植
樹体験

・ボッケ周辺を散策したり、
エコミュージアムを見学した
りする活動

(生活)～10月

「秋が いっぱい」

・自然のものを利用して遊んだり、遊びに使うもの
を工夫して作ってみんなで遊んだりするための素
材を探したりしながらボッケ周辺を散策する活動
・ボッケ周辺にしか生息しないソバタを観察、採集
する活動

(生活)～6月

「やさしさをそだてよう」

・野菜の苗を植えたり種
をまいたりして育て、収穫
する活動

(国語)～6月

「本をさがして読む」

・興味のある動物や自然
についての本を探して調
べる活動

(道徳)～10月

3(2)自然愛・動植物愛護

「大きなあれどんぐりくん」

・身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で
接しようとする心情を育てる



エゾマツの苗を植樹



木札にメッセージ
「大きく育ってね」

北海道キノコの会

奈良 泰世 様
奈良 礼子 様

第2学年～秋



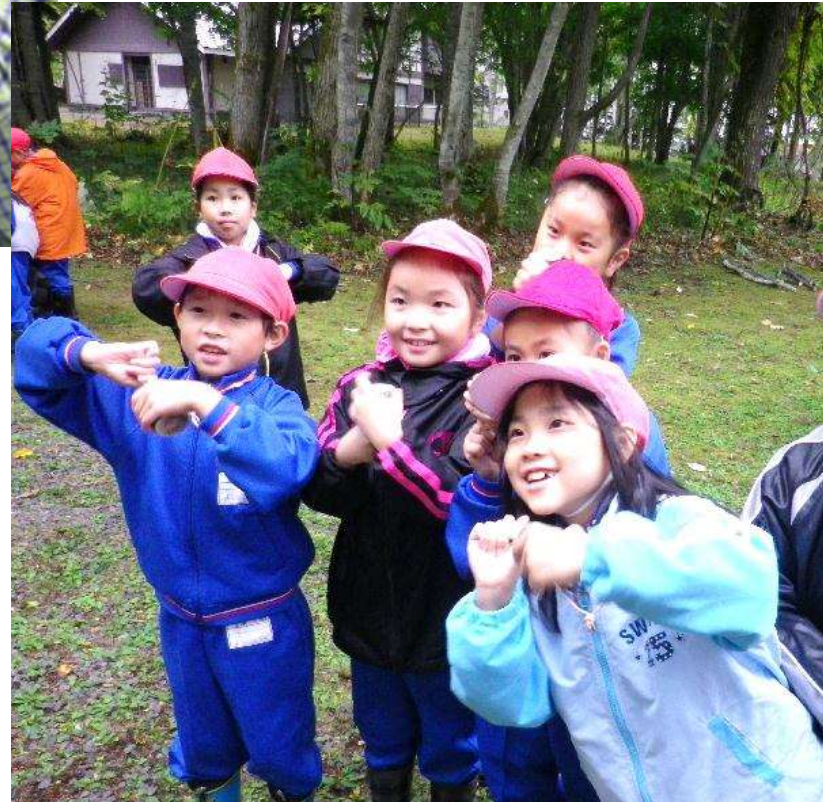
第2学年～秋

天然のハチミツ



火山帯のため、地熱によって
「マダラスズ」などのコオロギが
厳冬期でも鳴いている

第2学年～秋



バードコールをつくり、
音を鳴らしながら
野鳥の観察

2年生児童の感想(春)

お弁当を食べるとき、雄阿寒岳、雌阿寒岳がとてもきれいでした。

植えた木が大きく育つといいな。

くわの使い方を教えてくれたので、上手にクロエゾマツを植えることができました。

切り株の上に、木の赤ちゃんが生えていました。

本物のハチミツが、シナの木の花からとれることがわかりました。

本当のハチミツは、ネバネバではなくトロトロで砂糖よりも最高に甘くておいしかったです。

2年生児童の感想(秋)

いろんな秋を教えてください、ありがとうございます。クマゲ
うがつついた木とかがおもしろかったです。

リスとネズミの歯の痕が違うのを、わたしは知りませんでした。
ありがとうございました。

森の奥にリスの食べかけのくるみがありました。

くるみを家で食べたら、とてもおいしかったです。

キノコ博士へ。いろいろなきのこを教えてくださいありがとうございます。
ございました。お母さんやお父さんに教えたら、すごいねと
言われました。

またどこかにきのこがあったら、よく観察してみたり調べたり
してみます。

わたしは、教えてくれたホシアンズタケを覚えています。

2年生児童の感想(秋)

この前の阿寒で、いろいろな秋を学びました。家のまわりにはいない虫、ないものなどがあって、とても楽しかったです。そして、家のまわりにも秋があるかどうか、探してみたいなと思いました。

春の森と秋の森は、季節によって違うということが分かりました。

バードコールは、宝物になりました。

バードコールを鳴らしたら、小鳥が来てくれてうれしかったです。

第3学年

(道徳)～5月

3-(2)自然愛・動植物愛護「ケヤキのやさしさ」

・自然のすばらしさや不思議さに感動し、自然や動植物を大切にしようとする心情を育てる

(理科)～8月

「チョウを育てよう」「虫を調べよう」

・生物を愛護する態度を育てるとともに、昆虫の体のつくり、成長のきまり、昆虫とその周辺の環境との関係について理解するため昆虫を採集する活動

(国語)～9月

「生き物のとくちょうを説明しよう」

・まとめや事柄の順序を考えながら文と文との続き方に注意して説明文を書く活動

(国語)～9月

「いろいろな手紙を書こう」

・手紙の書き方を知り、目的に合わせて依頼状、案内状、礼状などの手紙を書く活動

(国語)～10月

「まわりに目を向けて詩を書こう」

・身近なこと、想像したことをもとに表現を工夫して詩を書く活動

(図工)～10月

「虫さんランド」

・粘土の塊や、身のまわりの自然素材を使って、虫さんが楽しく過ごせるような、素敵な「虫さんランド」をつくる活動

第3学年

昆虫の観察



木の幹の太さを体感

第3学年





親水(水に親しむ) 水切り遊び

3年生児童の感想

ボッケは、卵が腐ったようなにおいがした。

樹液を初めて見られてよかったです。

水切りをしたら、最高で7回くらいいったよ。

阿寒湖を船が通ったら、とっても大きな波がきてびっくりした。

セミやセミの抜け殻を見付けた。

クワガタやスズムシがいたよ。

カラスアゲハ、コガネムシもいたよ。

家の近くにいない虫がいたので、おもしろかったです。

驚いたことは、棒に化けた虫がいたことです。

3年生児童の感想

セミのイメージが全く違ったので驚きました。尻尾の方には針のようなものがあり、目には何かが入っているようでした。

中谷さんは、キマワリが何を食べるのかを教えてくださいました。

ヒシバッタとキアゲハの幼虫をがんばって育てていきたいです。

木の根っこにコオロギのすみかを発見しました。

コオロギは温かいところにいると思っていたのに、木のかげにたくさんいたことに驚きました。

コオロギは木の近くにいたから、もしかしたら日陰の方が好きなのかもしれない

第4学年

(音楽) ~9月

「にっぽんのうたみんなのうた~もみじ」

- ・歌詞の内容から情景を思い浮かべ、曲想を生かして表現する活動
- ・旋律の重なりや声の響き合いを感じ取って合唱する活動



(社会) ~10月

「健康なくらしとまちづくり~水はどこから」

- ・阿寒湖に注ぎ込む川に沿って散策をしながら、雌阿寒岳に降った雨や雪が長い歳月をかけて地下に浸透して湧き出している湧水地を見学する活動



(道徳) ~10月

4-(5) 郷土愛

「ぼくたちの手で

環境をまもりたい」

- ・郷土の伝統と文化を大切に、郷土を愛する心情を育てる



(国語) ~11月

「ポスターセッションで

発表しよう」

- ・ポスターセッションを通して、調べたことなどについて、筋道を立てて話したり、話の中心に気をつけて聞いたりする活動

河口

第4学年



白湯川をのぼる

A photograph of two children in a stream. On the left, a boy in a blue jumpsuit and black boots stands on a rock, looking down at the water. On the right, a girl in a pink cap and light-colored jacket sits on the ground, holding a blue box with the number '10' on it. She is looking up at the boy. The stream is shallow with rocks and fallen leaves. The background shows a forest with trees and foliage.

水が流れてくる方向を
確かめる

A photograph of two children in a forest setting. The child on the right is wearing a blue jacket, blue pants, and blue and yellow boots, and is carrying a red backpack. They are looking down at the ground. The child on the left is wearing a blue jacket and blue pants, and is also looking down. The ground is covered with fallen leaves and moss. A speech bubble is overlaid on the bottom left of the image.

水が湧き出している
ところを発見



ザリガニを発見

4年生児童の感想

もみじはもみじでも、ウチワカエデ、ヤマモミジなどいろいろな種類があることを教えてもらいました。

800年ほど生きている木が、すごく大きかったです。

カツラの木は、周りに人が7人手をつないでやっと回れるくらい大きい太い木で、木の葉のにおいは、とてもいいにおいでした。

川を辿っていくと、きれいな川、泥の混じっている川など、いろいろあり、その周りの風景がどんどん変わっていきました。

びっくりしたことは、水源から出る水はすごく少ないのに、その水が阿寒湖にたくさん溜まり、すごくきれいな水になるということです。

水源といえば、ボコボコと水が出ている所だと思いましたが、森や山から水が出てくるなんてすごい力を持っているんだなあと思いました。

4年生児童の感想

水源は、川がないところに森から水が出てくるということが分かりました。

ニホンザリガニは絶滅しそうで、外来種の大きなウチダザリガニに食べられてしまったり、すみかを奪われたりしていることが分かりました。

ニホンザリガニがいなくなった原因は、人間が（外来種を）ここに持ってきたのが悪いということだと思いました。

ウチダザリガニがすみかを取ったから悪いのではなく、人間が外来種のウチダザリガニを持ってきて、食べずに放してしまったのです。

教えてもらったことは、森林が無くなると水が無くなり、水が無くなるとニホンザリガニがいなくなるということです。

森も自然も水も人間も、みんなつながっているということも分かりました。

第5学年

(道徳)～6月

3-(2)自然愛・動植物愛護 「一踏み十年」

・自然の偉大さを知り、自然環境を大切にしようとする心情を育てる

(理科)～9月

「台風接近」

・台風で短時間に多量の雨が降ったりすると災害が起きること等をとらえるため、適切な気象情報や災害の情報を集める活動

(道徳)～6月

4-(4)勤労・社会への奉仕 「ボランティアしてみよう」

・働くことの意義を理解し、社会に奉仕する喜びを知って公共のために役立つことをしようとする心情を育てる

(理科)～9月

「流れる水のはたらき」

・流れる水の速さや量、流れる水のはたらきと土地の変化との関係について理解するため、川の様子を観察する活動

(社会)～9月

「環境を守る人々」

・森林を守り育てていくことの大切さ、自然環境と人々の生活や産業とのかかわり、国土の保全に果たす森林の役割について理解するため、森林を守り育てる仕事について調べる活動
・間伐、枝打ち体験

(国語)～9月

「世界遺産 白神山地からの提言―意見文を書こう」

・自然保護について、基礎的な知識を解説した文章を読んだり、異なる立場の人が意見を述べた文章を読んで比較したりして考えを深める活動

(図工)～9月

「線をあつめて」

・枝などの細長い素材を集めて、それをひもやアルミ針金で接合し、材料の組み方やつなぎ方を工夫しながら、立体的な形を生み出す活動

(国語)
～9月

「敬語」

・敬語のはたらきと種類を知り、適切に活用する活動

(家庭)～3月

「環境を考えた『エコライフ』をくふうしよう」

・環境を考えた生活について話し合ったり実践したりする活動



川に入り, 流水の働きを体感

第5学年

下流域の丸い石





上流域の
角張った石

枝打ち体験





枝などを利用した
作品作り

5年生児童の感想

枝打ちは、木が病気になりにくくするためにやるということがわかりました。

落ちた木は、肥料になって良いことがたくさんあると思いました。

切って持ち帰った枝は、図工で工作をして、家の玄関に飾ってあります。玄関が森のようなにおいになりました。

下流の方が石が丸く、流れがあまり急じゃなかったけど、上流の方は、石がとがっていて、流れがすごく急でした。

下流の水のところは、水が濁っていなくて、下の方が見えました。上流の方へ行くと、冬みたいな冷たい水でした。

特に驚いたことは、川の流れの力で地面が少し削られているところがあったことです。

5年生児童の感想

自然森林と人工造林の違いがよく分かりました。

「死の森」と普通の森の明るさ、空気、草がとても違うのでびっくりしました。

いつも川の水の量がほぼ同じということが、自然なのにすごいなと思った。

阿寒百年水がおいしかったです。

釧路市の愛国浄水場とは違い、阿寒湖畔では、取り込み、すぐに濾過しているから節約できるし、とってもおいしくていいなあと思いました。阿寒の水がミネラルウォーターとして売られていて、とっても驚きました。

お姉さんに「この川の中の草は何ですか」ときくと、「これはバイカモといって、水がきれいなところじゃないと生えない草なんだよ」と教えてくれました。



第6学年

(理科)～・2月 「生き物と環境」

- ・人や他の動物，植物を取り巻く自然環境を幅広い視野でとらえ，人が自然に及ぼしてきた影響を理解し，自然を守るために自分たちでできる取り組みを行う活動
- ・エゾシカによる食害を防ぐための樹木のネット巻き体験，エゾシカ捕獲施設の見学等

(家庭)～2月 「考えよう これからの生活」

- ・生活や環境とのかかわりを考えて快適な生活の仕方を工夫したり，身近な人々へ感謝の気持ちを工夫して伝えたりする活動

(国語)～2月 「意見文を書こう」

- ・課題を見付け伝えたい事柄を整理し，図や表を利用しながら意見文を書く活動

(道徳)～2月 3-(2)自然愛・動植物愛護

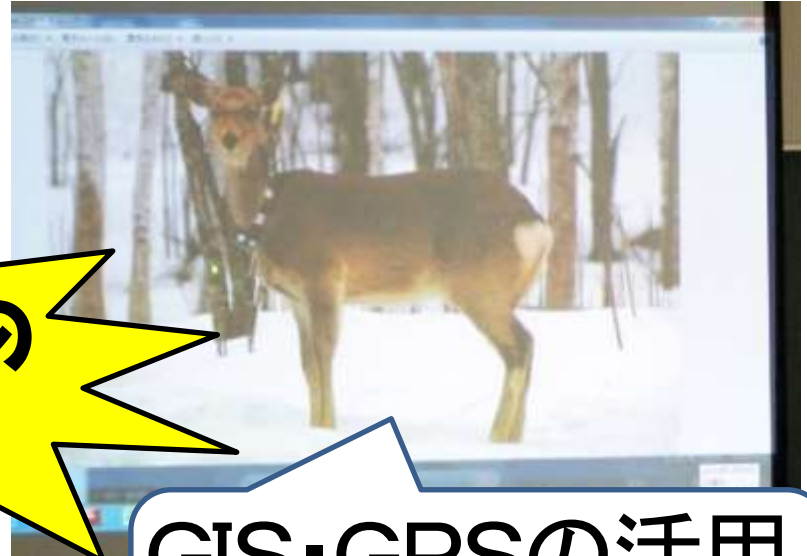
- 「愛華さんからのメッセージ」
- ・自然の偉大さを知り，自然環境を大切にしようとする心情を育てる

第6学年～1月
事前レクチャー



食物連鎖

ネット巻きの
意義



GIS・GPSの活用
Google Earth



第6学年～2月 阿寒湖畔にて



ネット巻き体験



第6学年～昨年2月
阿寒湖畔にて



ビートパルプ

捕獲施設の見学

〈給食〉 ～「エゾシカ肉を使った学校給食」※全学年

- ・釧路市が行っている「増えすぎたエゾシカへの対策」をトータルで理解するため、被害、森林保護、捕獲、有効活用に関する話を聞く活動
- ・**エゾシカバーガー**

食育だより

2月

平成25年2月

北海道教育大学附属釧路小学校



暦の上では、もうすぐ立春ですが、北海道の寒さはこれからが本番です。今年の冬は例年にない寒波が吹き荒れる野菜が高騰していますが、かぜの予防のために、今月は野菜がたくさん入ったスープや汁ものを取り入れ不足がちな野菜が食べられるような献立にしました。栄養バランスのいい食事をしてかぜを予防しましょう。



エゾシカをおいしくたべよう！

北海道では、現在、エゾシカの数が年々増加していることが大きな問題となっています。それは、エゾシカが、冬になると樹木の皮を食べて森の木を枯らしたり、畑の作物を食べたりするからなのです。そこで、北海道では森を守るためにエゾシカの駆除をはじめ、貴重な食材として有効利用する取組を始めました。しかし、エゾシカについていろいろ調べてみると、もともとアイヌの人々にとって貴重な食糧だったこと、明治時代にはエゾシカ肉を缶詰にして海外に輸出していたという歴史があり、北海道では、シカ肉の食用の習慣がありました。本校の6年生も環境教育の一環として2月に阿寒湖畔に出かけるなど、エゾシカの生態や食肉の仕組について学んでいます。

○エゾシカ肉は、鉄分が豊富で脂肪が少なくヘルシーなお肉です！

シカ肉には、体を大きくしてくれる「たんぱく質」や血をつくるものになる「鉄」が他の肉より多いのが特長です。普段の食生活でとりづらい鉄など私たちの体に欠かせない栄養がたくさんふくまれている、今注目の食材です。



○給食でシカ肉を食べて元気な体をつくらう。

6年生の環境教育プログラムを機会に、シカ肉の有効利用を図るため、給食でシカ肉を食べることにしました。そこで冬休みに先生たちとシカ肉料理の試食会を開き、子どもたちが食べやすい「ハンバーガー」にしました。シカ肉は、子どもたちがお世話になっている前田一歩園財団が被害対策の一環として阿寒湖畔の山林で餌付け、捕獲したエゾシカを使うことにし、衛生管理が整った北泉開発さんが加工したシカ肉を提供していただくことになっています。2月19日は、食育の日です。みんなで「げんきもりもりバーガー」を食べて、あらためて北海道の自然のめぐみに感謝してシカ肉をいただきたいと思います。

鉄をりてますか？

こくみんえいようちようさ で、鉄の摂取量の不足が指摘されています。鉄は赤血球中のヘモグロビンを構成する成分で、酸素を全身の細胞に運搬する役割があります。不足すると鉄欠乏性貧血になり「疲れやすい」「顔色が悪い」「食欲低下」「めまい」「息切れ」などの症状が見られます。

○鉄が不足すると・・・



からだのだるい



あさ、なかなかおきられない



つめの色がわるくなる

鉄は、こんな食品に多くふくまれています



○ビタミンCが多い野菜や果物と一緒に食べると、鉄の吸収がよくなります。

給食レシピ紹介

げんきもりもりバーガー

—シカ肉と豚肉の官能ハンバーガーをパンにはさんで—

【材料】(1人分出来上がり60g)

○ハンバーグ		○パンズパン	1コ
シカ肉(ミンチ)	30g	レタス	10g
ぶた肉(ミンチ)	15g	トマト	15g
玉ねぎ(みじん切り)	20g	○照り焼きソース	
卵	5g	しょう油	3cc
パン粉	5g	みりん	1.5cc
塩・こしょう	各少々	砂糖	1g
しょう油	1cc	酒	1cc
ナツメグ	少々	水	15cc
		片栗粉	1g



あぶらみが少なくとてもヘルシーなハンバーガーです！

【作り方】

- 1 ボールに肉と炒めた玉ねぎを合わせ、パン粉と調味料を加えてよく混ぜる。
- 2 肉を小判型に丸め、油をひいて両面をよく焼き、取り出す。
- 3 残った肉汁に照り焼きソースの調味料を加えて火を通し、ハンバーグを戻してソースをからめる。
- 4 パンにレタス、ハンバーグ、トマトをはさむ。

各家庭へ配付

- ・げんきもりもりバーガー
- ・だいずいりミネストローネ
- ・牛 乳
- ・フルーツのゼリーよせ

《シカのお話》



北海道でエゾシカが増えたことによる農産物などへの被害が深刻

になり、そのシカの有効活用が地域ですすめられています。

各地でいろいろな取組がなされていますが、エゾシカをおいしく

食べようと、毎月第4火曜日を「シカの日」として、市内のスー

パーでもシカ肉を販売するようになりました。また、最近では保育園や

学校給食でもシカ肉の利用をすすめています。

日本では、まだ馴染みがないシカ肉料理ですが、フランスやドイツな

どヨーロッパでは、牛肉よりも高級な食材としてレストランで食べられています。

ノーベル賞受賞式の晩餐会でメインディッシュとしてシカ肉料理がふるまわれるこ

とは、伝統になっているそうです。

◎エゾシカ肉をおいしく食べて、自然をまもろう。



昨年から6年生が阿寒湖畔でシカの森林被害について学習をしてきま

した。そこで、今年も昨年大変好評だったシカ肉の「げんきもりもりバ

ガー」を作ることにしました。エゾシカ肉をおいしく食べることは、森を

まもり自然をまもることにつながります。しっかり味わっていただきましょう。

《シカの栄養》…シカ肉は、健康食品！

シカ肉は、肉の中でも特に栄養価が高いといわれています。

それは、シカ肉が牛肉や豚肉にくらべて脂肪分が少

ないわりに、たんぱく質が多く、日本人に不足がちな鉄が

肉の中でダントツに多いからです。貧血気味な人や疲れや

すい人には、とくにおすすで、消化もいいお肉です。



肉別の鉄分量



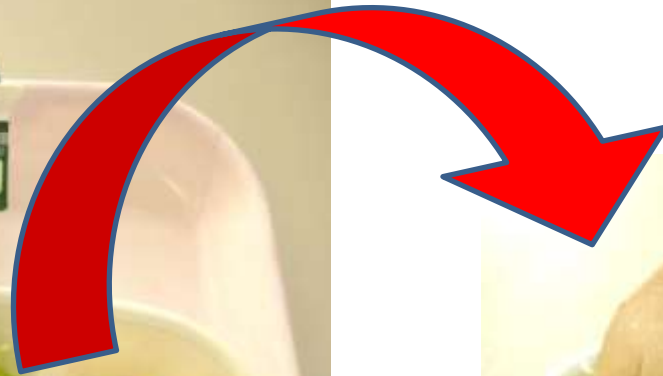
ひとつひとつ
手作りです



パンにレタスとハンバーグを
はさんでたべよう

各教室に掲示

自然体験学習実施後 ～学校給食～



自然体験学習実施後

シカ肉と他の肉との栄養価比較

	しか肉	ぎゅう肉	ぶた肉	とり肉
カロリー	110	229	202	105
たんぱく質	21.1	18.4	18.9	0.8
脂質	1.5	23.3	12.8	0.8
鉄分	3.1	1.3	1.1	0.2
ビタミンB2	0.35	0.18	0.25	0.11



自然体験学習実施後



釧路市産業振興部 産業推進室
主任 島田 勇氣 様



6年生児童の感想

エゾシカがだんだん増えてきているという話は聞いたことがありましたが、こんな重大な問題だとは知りませんでした。

木の皮を食べられると、木は死んでしまうということがわかりました。

肉食動物、草食動物、植物で、どれか一つでも増えたり減ったりしたらピラミッドが崩れてしまうと聞いてびっくりしました。

肉食動物を殺したら、草食動物が増えて植物が減ってしまう。草食動物を殺してしまうと、肉食動物のえさが無くなり共食いをしてしまう。植物が無くなると、草食動物が減り肉食動物のえさが無くなって減ってしまう。

今後に向けて

たとえ遠距離だとしても訪問する価値のある

豊かな
自然環境

充実した
活動内容

熱心な
財団職員・講師

(子どもの記述からも)

遠距離によるマイナス面

活動時間の
確保

打ち合わせ・
下見の機会

移動手段